

# 東京高裁 四ッ谷裁判長 による 狭山再審却下弾劾!

## 無実の石川さんへ奪還、再審絶対勝ちです!

2月7日、東京高裁四ッ谷裁判長は、石川一雄氏の17年におよぶ無実の叫びを踏みにじり、弁護団、三〇〇万部大衆そして広汎な人民の真実追及の声を踏みにじって、「再審却下」の暴挙を行った。われわれは、真実から目をつむり差別・偏見もあらわに、ただただ石川さんと狭山闘争を抹殺・解体することのみを目的にしたこの国家権力の政治的かつ反動的攻撃に満腔の怒りを明らかにすると共に、獄中で不屈に闘い抜いている石川氏の叫びに応え、一層の闘いの強化をかちとらなければならない。

権力の卑劣・デタラメ  
な居直りを許すな!

高裁四ッ谷の示した「論拠」なるものは、全く非論理的、非科学的でただただ反動的、政治意図のみで有罪をデッチ上げようというデタラメきわまりないものである。周知のように、狭山裁判は石川氏の不屈の闘いによって、デッチ上げ「自白」をくつがえす無実の新証拠がつきつきと明らかにされ、(筆跡・足跡・スコップ・手ぬぐい・万年筆・死体の状況等々)警察側の捜査・鑑定の非科学性、デタラメ性、ニセの「自白」強要の実態が明らかにされてきた。



最後の血の一滴まで

石川一雄氏

ところで狭山裁判闘争は、今も一時の休戦なく、再審闘争という遠い峻しい至難の闘いが続けられているわけでありますが、でもどんな難阻であろうとも狭山再審勝利への途は支援者各位の果敢な闘いと積極的な訴え活動を通して全人民的狭山共同闘争の発展の下にしよう的再審の門が排除され、勝利へ向って一歩一歩前進していることを確信しております。

……然しだからといって皆さん方に安心され闘争心を緩められては一大事です。……: 思えば私の毎日は千葉刑務所において身も心も一寸刻みにする苦悩の連続であり、然も無実の罪に囚われて十七年間の今日もなお一般社会から隔絶されて居るのですら正に権力の手が生殺与奪権が握られ、そして一度に多くではなく、一滴ずつの血を、真綿で首を締められるがごとく吸い取られているわけでありすが、しかし私は最後の血の一滴が無くなるまで立ち向い、闘い抜く覚悟で居ります。……:

79年10月31日の狭山中央集会に千葉刑務所の獄中より上せられた石川一雄氏のメッセージより抜粋

更に決定的な事に、「脅迫状の訂正日付」問題で「自白」の全構成を完全にくつがえす重大事実(実は「29日」と書かれていたものを警察が最初「28日」と誤って読みとり、それにもとづいてストーリーをデッチ上げ、石川氏の「任意の自白だ」として強要し、ツジツマを合わせるべく工作してきた)が、事件発生後17年目(昨年になって発見されるに至り、検察・権力は完全にうろたえ、この新事実とそれをめぐる論戦の拡大から必死になつて逃れようとしていたのだ。

**12日 緊急抗議闘争**  
13時 日比谷小公園

**13日 棄却弾劾**  
14時 日比谷野音

**1万人集会**

「無実の石川さんを即時釈放せよ」「再審を直ちに行え」の声は大きく拡がり、権力を追いつめ、去る1月28日には、全国19都府県で中高三千校、十万人の同盟休校、首都九千名の大集会もたれ、権力をギリギリと追いつめたのである。

石川さんはまぎれもなく無実である! 狭山闘争の高揚に恐怖する権力の反動的暴挙を今こそ全人民の力でうちくだし、石川氏奪還、再審貫徹をなごなんでも闘いといこう。

7日、「却下」の報に接するや動労千葉青年部と「地区共闘」は、直ちに船橋駅頭で緊急抗議の街頭宣伝にうって出ると共に、東京高裁に抗議団を代表派遣し、部落解放同盟と共に機動隊の暴虐に屈せず緊急抗議闘争を貫徹した。

怒りをこめて、12日、13日の抗議闘争に決起しよう! 再審貫徹し、なんとしても石川さんを奪還しよう!

### 訂正

『日刊』2月8日号のスケジュール表に誤りがありましたので訂正します。

- 組織部長会議 10時 ↓ 13時
- 交渉 " " 10時 ↓ 13時30分